

『アフリカ1人旅体験記』

外国語学部
国際文化交流学科3年

武田 渉

はじめに

私が初めてアフリカに興味を持ったのは高校1年の時でした。入部した駅伝部にタンザニアやケニアからの留学生が居て、彼らから母国の話を聞いてとても驚いたのがキッカケであった。長期休みに帰国すると、狩猟民族に戻り、バッファロー狩りをしたり、水を汲みに数時間歩いたり日本で暮らす私からは全く想像ができなかった。その時、いつかその現実を確かめに、アフリカに行こうと決意した。アフリカに行く前に、大学の長期休暇を利用して、一人旅でアメリカ横断と南米6ヶ国を訪れ、旅の知識を養った。アフリカ一人旅に要したお金は往復の航空券を含め約50万円。アフリカを含めすべての旅を貯金とアルバイト代から捻出した。



アフリカ

アフリカ大陸は日本の総面積の約80倍、アメリカ合衆国とヨーロッパを合わせた面積とほぼ同じという広大な大陸である。アフリカは大きく分けて5つに分けられ、地域によって言語や文化など多種多様である。サハラ砂漠より北でアラブ系が多い、北アフリカ、かつてフランスの植民地でありフランス語圏が多い西アフリカ、赤道直下の中部アフリカ、スワヒリ語が浸透している東アフリカ、アフリカの経済大国、南アフリカ共和国を中心とする南アフリカ。今回、私が訪れたのは、東アフリカと南アフリカを1ヶ月間、1人旅で周った。途中、通過しただけの国を含めると7ヶ国訪れた。7ヶ国を1ヶ月間で周ったので、一国の滞在日数は長くても1週間と短い。

皆さんは「アフリカ」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。貧困、エイズ、内戦、政治情勢が不安定であるなどマイナスなイメージが多いかもしれない。確かに1日1ドル以下で生活している人が数億人規模にいるし、成人の4割がエイズ感染者という国もある。しかし、私が訪れた地域では、外国人である私を、アフリカ特有の音楽やダンスで暖かく迎えてくれた。



エチオピア

日本から中東のドバイまで約10時間、ドバイからエチオピアの首都アディスアベバまで約5時間。エチオピアはアムハラ語という言語を公用語にしており、英語が全く通じない。ガイドブックに載っていた宿に行くと、簡単な屋根の下にベッドが置かれていた。トイレもシャワーも無い。私の「ホテル」のイメージからは逸脱しており、一泊25ドルの中級ホテルに4泊した。ホテルの前には各国の大使館が集まっており、日本という港区であり、最も栄えているエリアだ。しかし多くの道路は舗装されておらず、鶏やロバが町をうろついていた。「これがアフリカか」と感心しながら町を歩いていると、ストリートチルドレンに囲まれ、お金をせびられた。その数分後にも老人に腕を引っ張られて怖い思いをした。観光客が一人で歩く場所ではないと感じた。

ケニア

エチオピアから飛行機で約2時間でケニアの首都、ナイロビに着いた。ナイロビは東アフリカで最も繁栄している街で



ヌーの群れ

シティセンターには近代的なビルが林立し、昼間はビジネスマンであふれている。ケニアを訪れた目的は野生動物を見ること。さっそくホテルで2泊3日で500ドルのツアーに申し込んだ。平均月収1000ドル程度のケニアにしてはかなり割高であった。翌日の早朝からバンに乗り込んでマサイ・マラ国立保護区へと向かった。道なき道を進むこと6時間ほどすると赤いマントを着たマサイ族が現れ、手を振っている。彼らは手を振り観光客にチップを要求している。

マサイ・マラ国立保護区は大阪府とほぼ同じ面積であり、保護区内では様々な動物が野生に状態で保護されている。保護区内には許可を受けた車だけが入ることができ、野生動物を間近で観察できる。草を食べるシマウマの群れがいたり、骨だけになった草食動物が横たわっていたりと食物連鎖を感じることができた。動物を見た後はツアー



ヌーを食べるライオン



マサイ族の welcome dance

に参加している欧米人らとバッファローの肉や東アフリカで主食のウガリをたき火の明かりだけを頼りに食べ、真っ暗なテントで寝た。翌日は保護区近くのマサイ族の集落を訪問した。訪れたマサイ族は観光客慣れしていた。慣れ過ぎていた。「約1000円で英語のガイドと写真を撮る許可を与える。」と集落の長に言われた。確かに無断で写真を撮るのは失礼であるし、ガイドもしてもらいたいが、電気もガスもないケニアの山奥で1000円

は高すぎる。素直に払う欧米人に連れられ、払ってしまった。この集落のマサイ族は近代的で、一部は自転車にも乗っており、携帯電話も持っている。それらを購入するためにガイドをし、現金を稼いでいるのであろう。



耳に大きな穴を開けるのがマサイ族のオシャレ

タンザニア

ケニアのナイロビからタンザニアの首都ダルエスサラームまで長距離バスで10時間ほど。実際は深夜に国境が閉鎖されていたため、20時間ほどかかってしまった。アフリカの安いバスは貨物車も兼ねているので、非常に窮屈だった。ダルエスサラームに着いてすぐに、船で1時間ほどのザンジバル島に向かった。ここはアフリカのリゾート地でスキューバーダイビングのメッカである。ダイビングに興味があった私はここでダイビングのライセンスを英語で取ることにした。ケニアからずっと日常会話すべてを英語で過ごしてきたので、少し自信があった。2時間ほど教室で授業をし、次

の日から実技の訓練。一緒に訓練するのはイギリス人でインストラクターはオーストラリア人であった。両者ともネイティブスピーカーで何を言っているのか理解するのが大変だったがなんとかライセンスを取得することができた。

リゾート地だけあって、街には外国人が多く歩いており、とても安全である。物価も1人部屋ホテルが800円ほどで、露店で売られているマンガローは1つ30円ほどで非常に美味しい。バナナも1本10円で割安感を味わえた。物価は安いし、安全、食べ物には困らないし、1ヶ月のアフリカ生活で最もリラックスできた5日間であった。

ザンビア、ジンバブエ

タンザニアのダルエスサラームからザンビアの首都ルサカまでバスで27時間、ルサカからリンダスタウンまでバスで4時間ほどだが、途中バスがパンクし、修理したので5時間ほどかかった。ここリンダスタウンはジンバブエとの国境の街であり、世界最大級のビクトリアの滝が国境沿いにある。その滝を見に来たのと、ハイパーインフレで紙幣の価値がほとんど無くなったジンバブエに行くのが目的だ。これまでにアメリカのナイアガラの滝、アルゼンチンのイグアスの滝と世界最大級の滝を見てきたがビクトリアの滝も負けず劣らず

巨大で美しかった。偶然にも滝に虹がかかっており幻想的だった。ビクトリアの滝を見るためだけならザンビア側からジンバブエ側に査証なしで行くことができる。ジンバブエ側では500億ジンバブエドルなど桁違いの紙幣を入手することができる。



ビクトリアの滝



50億ジンバブエドル

